

Q&A 地域アカデミア Web 講座「江戸の改革者 田沼意次の光と影」

受講生からの質問に対しては、事務局で取りまとめた上、受講生のみがアクセスできる本 HP「資料室」上で共有できるようにします。
今回の講義内で受講生から以下の質問（含む感想）が寄せられましたので、講師の先生からのご回答を掲載いたします。なお、内容は随時更新されます。

(2025. 07. 11)

Q1 :

- ①田沼政治というのは、よく重商主義であったといわれていますが、それは本当なのでしょうか？
- ②そして彼の政策について、幕府面からみた場合は現代の視点からみるとどうであったのか（評価）を教えてください。よろしくお願いいたします。

A1 :

ご質問ありがとうございます。

- ①民間の経済の発展から、財政収入の増加をはかったという意味では、重商主義だったのだと思います。

ただ、だからといって意次が「農」の面を軽視していたのかといえば、そうではなく、新田開発なども企図していました。

- ②今度お話しするような中井清太夫のような一癖あるが、有能な人物が活躍する一方で、時に意次らが彼らに翻弄されるところが興味深く感じます。これ以前から活躍していますが、勘定役人たちが一層の存在感を見せ始めるようになるのが、この時期なのではないでしょうか。

また、近現代までつながるような日本とロシアとの関係の一つの始期であると（学界では）考えられていると思います。

Q2 :

昨日は最近見直されている田沼意次の講義を、佐藤先生に突っ込んだ視点でお話しいただき有難うございました。大変面白く拝聴しました。

勘定役人達がこぞって新規施策を提案する山師の様だったと興味深く拝聴しました。明治時代になされた蝦夷地開発も、江戸時代に先駆けて開発されていれば幕府財政も随分潤沢になったことでしょう。

ところで、江戸期の大砲について述べられましたが、関ヶ原の戦い直前に三浦按針が持ち込んだ大砲の行方は記録に残っているのでしょうか？

本講座とは関係ありませんが、佐藤先生がご存じで有ればご教授頂ければ

幸いです。

A2 :

ご質問ありがとうございます。

三浦按針が持ち込んだ大砲が関ヶ原の戦いで使われたという逸話のことで、よろしいでしょうか？

日本側の史料には、そのような記録は残っていないと思われます。

三浦按針に関しては、

[『ウィリアム・アダムス』フレデリック・クレインス | 筑摩書房](#)

という新書が出ているようです。ご参考までに。

(私は未読で、申し訳ないのですが・・・)